

和束町第5次総合計画(案)に関する意見への対応について

No	部会の章	部会のテーマ	意見カテゴリ	意見内容	計画記載有無	ページ	章	基本施策	施策方針	計画での記載
1	I	子どもから高齢者までの全ての住民が健やかに暮らせる郷	交流	若い人のボランティア参加の促進やボランティアを募集して、交流を図りながら支援体制を整えてほしい	有	P44 P50 P52	I I I	2 5 6	1 1 1	地域住民のボランティア育成と活動の支援充実を図るとともに、自治会や民生委員等との連携強化を図り、若い世代をはじめとした地域住民のボランティア活動が促進されるよう、支援体制の強化に取り組めます。
2	I	子どもから高齢者までの全ての住民が健やかに暮らせる郷	医療	障がい者は移動が簡単ではない為、一つに集約した施設があると良い。	有	P47	I	3	4	計画にある、(仮称)総合保健福祉施設の整備に当たっては、保健・医療・福祉のサービスがワンストップで受けられ、住民同士の交流や文化を生み出すふれあい拠点とすることとしており、障がいの有無に関わらず様々な機能を集約した利便性が高い施設としていきます。
3	I	子どもから高齢者までの全ての住民が健やかに暮らせる郷	医療	町外の病院を受診しなくても良いように医療体制を充実させる必要がある	有	P47	I	3	3	住民が安心して町内で医療が提供されるよう、(仮称)総合保健福祉施設の整備とともに、引き続き、京都山城総合医療センター等との連携に努めていきます。
4	I	子どもから高齢者までの全ての住民が健やかに暮らせる郷	医療	総合保健福祉施設を早期に整備してほしい	有	P47	I	3	3	総合保健福祉施設整備基本計画に基づき、整備が円滑に進むように取り組めます。
5	II	生きる力を育む教育と生涯にわたった学びの郷	学校教育	和束保育園時代から教育は出発している。幼小が接続した取り組みが必要である	有	P49	I	4	2	保育園では、学校と連携して園児の就学前から、学校教諭の保育園訪問や園児と小学生の交流、学校行事への園児参加など、子どもの成長が途切れない取り組みを実施しており、今後も幼少が連携した取り組みを推進します。
6	II	生きる力を育む教育と生涯にわたった学びの郷	学校教育	地方の小さな町の学校だからこそ、よりICT教育の向上が必要である。	有	P49	I	4	2	子ども達の成長に応じて、ICTを活用した授業を推進していきます。
7	II	生きる力を育む教育と生涯にわたった学びの郷	学童と児童館の繋がり	学童と児童館が離れているので、相互連携がなされていない。もう少し何とかならないか。子どもが利用する仕組みは違っても、子どもがいることは変わらないので、毎日でなくても、イベントは一緒にやるなどの連携があれば良いのではないか。	無	P49	I	4	2	子ども達の環境に関わりなく、学校や地域全体で連携しながら子ども達の教育向上を図るため、次のとおり修正します。 「いきいき子ども館事業や放課後子ども教室実施など とともに、学童保育とも連携を図りながら 、家庭と地域の教育向上に努めます。」

No.	部会の章	部会のテーマ	意見カテゴリ	意見内容	計画記載有無	ページ	章	基本施策	施策方針	計画での記載
8	I	子どもから高齢者までの全ての住民が健やかに暮らせる郷	ひきこもり	ひきこもりの相談体制の充実と実態把握の強化	無	P49	I	4	4	ひきこもり状態にある方の社会復帰に向けた施策方針について、次のとおり計画に追加します。 「京都府「脱ひきこもり支援センター」との連携を強化し、ひきこもり状態にある方と、その家族へのきめ細やかな相談に応じるため、体制の確立・充実を図ります。また、小・中学校や地元の民生児童委員等と連携し、ひきこもりの児童生徒や家族等に対して早期にアプローチし、実態に即して一体的な支援に取り組みます。」
9	I	子どもから高齢者までの全ての住民が健やかに暮らせる郷	介護	少子高齢化の歯止めがかからず、老後を支える人材の不足、町の将来に不安を感じる	有	P48 P50 P88	I I V	4 5 1	-	全国的にも先進的な子育て支援施策の推進と、移住施策の促進により子育て世代の増加を図るとともに、地域で高齢者とその家族を支える仕組みを充実させていきます。
10	I	子どもから高齢者までの全ての住民が健やかに暮らせる郷	コロナウイルス	高齢者のコロナ予防対策が出来ていないので、強化すべきではないか	有	P51	I	5	2	高齢者にとってリスクが高い新興感染症に対して、正しい知識を持ち予防対策が実践できるよう働きかけるとともに、関係機関と一体となったまん延防止対策を実施していきます。
11	I	子どもから高齢者までの全ての住民が健やかに暮らせる郷	介護	高齢者のみの老老介護への支援の充実を図ってほしい	有	P51	I	5	3	家族介護者等に対する生活支援等を充実することにより、地域全体で介護を支える仕組みづくりを進めます。
12	I	子どもから高齢者までの全ての住民が健やかに暮らせる郷	移動手段	高齢者の通院の足がなく、外出や移動が不便であるため高齢者・障害者の外出支援の充実と福祉バスなどの運用を検討してほしい。	有	P51 P92	I V	5 3	3 2	高齢者や障がい者が普段の生活を快適に過ごすための多様な生活支援サービスの提供をはじめ、交通弱者のための移送サービスのあり方を検討します。
13	I	子どもから高齢者までの全ての住民が健やかに暮らせる郷	認知症	認知症の予防の対策やサポーターによる支援の充実を求める	有	P51	I	5	3	高齢者増加に伴い、認知症の方も増加が見込まれる中で、認知症に対する人材養成や徘徊SOSネットワークといった、地域ぐるみでの対策を進めていきます。
14	IV	お茶観光を軸とした交流の郷	商業の振興	買い物等の高齢者への支援を、福祉対策とも連動し強化する必要がある。	有	P51 P80	I IV	5 2	3 2	高齢者にとって普段の生活が快適に過ごせるよう、多様な生活支援サービスが提供できるように努めます。
15	II	生きる力を育む教育と生涯にわたった学びの郷	学校教育	子ども達に目標をしっかりとめさせることで、学びを確かなものにするのが大事である。	有	P56	II	1	1	基礎・基本を確実に定着させ、課題と目標の共有、組織による実践に努めます。
16	II	生きる力を育む教育と生涯にわたった学びの郷	学校教育	子どもたちに身近な事から考えさせる教育を楽しく学ばせることが大事である。また、アクティブラーニングをさらに活かす必要がある。	有	P56	II	1	1	活用力・対応力の育成、学ぶ意識や楽しさを感じられる多様な学びを推進していきます。

No.	部会の章	部会のテーマ	意見カテゴリ	意見内容	計画記載有無	ページ	章	基本施策	施策方針	計画での記載
17	Ⅱ	生きる力を育む教育と生涯にわたった学びの郷	空き教室の活用	空き教室の活用について、具体的な方向付けが必要である。	有	P56	Ⅱ	1	1	現在学校では空き教室はありませんが、余裕のある教室を活用して取り出し指導等としての「少人数教育」の充実を図り、子ども達の個性を伸ばす教育を推進していきます。
18	Ⅱ	生きる力を育む教育と生涯にわたった学びの郷	小中一貫教育への取組	最初は行事レベルでもいいから、具体的な事業を実施しながら、長期的には小中一貫校を目指すべきである	有	P56	Ⅱ	1	1	小規模校の特性を活かし、地域と連携した教育や少人数教育の指導方法・体制の工夫改善を進め個性を伸ばす教育の充実を図るとともに、重要度が増している学校間連携（交流学习や小中連携授業）により、調和と統一のある教育内容を確立していきます。
19	Ⅱ	生きる力を育む教育と生涯にわたった学びの郷	文化の発掘や文化学習への取組	小学校時代から和東の歴史に触れることが大事である	有	P56	Ⅱ	1	1	ふるさとに愛着と誇りを持てるよう教育を充実させることが、計画に記載しています。
20	Ⅱ	生きる力を育む教育と生涯にわたった学びの郷	学校と地域との繋がり	学校の取組や児童生徒のこと、和東地域学校協働について、住民の人たちが理解しているのか。また、また、その事について十分な発信を行っているか。	有	P57	Ⅱ	1	3	学校と地域住民等が力を合わせて学校運営に取組む「コミュニティ・スクール」や「地域学校協働活動」の導入による学社連携の充実を図り、住民との協働による学校づくりに取り組んでいきます。
21	Ⅱ	生きる力を育む教育と生涯にわたった学びの郷	文化の発掘や文化学習への取組	和東はスポーツ活動は盛んであるが、文化活動は弱いので、文化活動の拠点となるような場の整備が必要である	有	P58	Ⅱ	2	1	文化活動をはじめ生涯学習活動の推進を広く住民へアプローチする取組として、和東町だけではなく、笠置町及び南山城村を含めた相楽東部広域連合において、それぞれが有する施設の相互活用等による活動拠点整備に努めていきます。
22	Ⅱ	生きる力を育む教育と生涯にわたった学びの郷	スポーツ活動の推進	住民参加型のスポーツ大会を開催し、活動促進と情報発信ができるように、もっと社会スポーツの充実を図るべき（和東では子どもの参加が少ないことが課題である）	有	P59	Ⅱ	2	5	住民一人一人が自分のライフステージやライフスタイルに応じたスポーツが実践できるように、その活動支援と環境整備に取り組みます。
23	Ⅱ	生きる力を育む教育と生涯にわたった学びの郷	文化の発掘や文化学習への取組	和東にはお茶以外にも多様な文化があり、まずは住民が知ることが大切であり、発掘・活用が必要である。	有	P62	Ⅱ	4	1	和東町の歴史文化を後世に伝承していくため、情報の収集・整理と体系化をするとともに、ふるさと歴史講座や展示会の開催等により住民の関心を高め、さらに住民自らが地域を周り知ってもらう「ふるさと巡りツアー」などに取り組んでいきます。
24	Ⅲ	自然と共生し、安全・安心な郷	防災	災害時の住民避難のタイミングは誰が連絡するかを明確にしておくべきである	有	P66	Ⅲ	1	1 2	消防団や消防団〇B等が中心となり、災害時に地域住民が速やかに避難行動がとれるように、自主防災組織の体制を強化するとともに、住民による水害等避難行動タイムライン作成を促進し、防災意識の向上に取り組めます。
25	Ⅲ	自然と共生し、安全・安心な郷	防災	危険箇所、防災マップを住民へ配布して把握しておく必要がある。	有	P66	Ⅲ	1	2	防災マップの配布や地域で話し合い水害等避難行動タイムラインを作成をする等、住民の防災意識向上に取り組んでいきます。
26	Ⅲ	自然と共生し、安全・安心な郷	河川	河川整備と整備後の交流はどうするのか	有	P69	Ⅲ	2	4	沿川の散策路の整備や清掃など環境整備を進め、河川を親しめる空間として、環境を活かした交流を図っていきます。

No.	部会の章	部会のテーマ	意見カテゴリ	意見内容	計画記載有無	ページ	章	基本施策	施策方針	計画での記載
27	Ⅲ	自然と共生し、安全・安心な郷	森林	放置されていると災害に繋がるため、森林・山の地主の確認が必要	有	P72	Ⅲ	4	2	地籍調査等による所有者の確定に努め、荒廃森林の整備を進めていきます。
28	Ⅲ	自然と共生し、安全・安心な郷	森林	森林保全は、林業の面から考えると非常に危険であり、ボランティアでは限界を感じる	無	P73	Ⅲ	4	3	次のとおり計画を修正します。 「林業に携わっている関係機関・団体から専門的な技術や知見の指導を得ながら、ボランティアの育成に努め、林業の活性化につながる取組を進めます。」
29	Ⅳ	お茶観光を軸とした交流の郷	観光の振興	治山・治水の視点も含め、湯船の山林を活かすことを考えるべきである。	有	P72	Ⅲ	4	1	既に湯船地域において実施しております京都モデルフォレスト運動の連携強化と拡大により、森づくり活動の充実に努めます。
30	Ⅳ	お茶観光を軸とした交流の郷	農林業の振興	高齢者農業がこれから増え、荒廃茶園も増える。これを守るために新規就農者等、町に若者を呼び入れる方策が必要である人材の育成が不可欠となる。茶業に関する機材はリースするということも考える必要がある。	有	P78 P79	Ⅳ	1	1・2	農作業受委託方式の促進、機械化に対応した基盤整備に対する支援等の強化や、新規就農者への支援に取り組みます。
31	Ⅳ	お茶観光を軸とした交流の郷	農林業の振興	生ごみを町内で堆肥に変え、この堆肥で野菜や茶園に環境にやさしいお茶づくりや野菜作りを展開する。	有	P78 P84	Ⅳ Ⅳ	1 4	1 1	有機栽培や廃棄茶葉を活用した有機堆肥を使った高付加価値野菜づくりの構築・取組みへの支援とともに、環境循環型農業の推進を図っていきます。
32	Ⅴ	快適で美しい環境の郷	雇用対策	新規就農の促進を図る為に先輩農家制度を検討してはどうか	無	P79	Ⅳ	1	2	新規就農者に対する支援の充実を明確にするため、以下のとおり修正します。 「新規就農者に対する給付金の支給や関係機関・農業者等と連携した活動支援の充実を図ることにより、新たな農業の担い手の育成に努めます。」
33	Ⅰ	子どもから高齢者までの全ての住民が健やかに暮らせる郷	コロナウイルス	緑茶がコロナウイルスに効果があることを実証して、町の活性化に繋げるとよいのではないか	有	P79	Ⅳ	1	3	お茶が持つ効能・効果を活用した商品開発により販路拡大を図るため、健康・食品業界等と連携した展開を検討します。
34	Ⅳ	お茶観光を軸とした交流の郷	犬打峠トンネルのインパクトを活用した新たな方策	犬打峠トンネルのインパクト効果を、一部の地域だけで捉えるのではなく、町全体の視点から適切な場所における開発・整備を行う必要がある。	有	P80 P82	Ⅳ	2 3	3 2	犬打峠トンネル等の開通により、和東町全体へ与える影響は大きく、その効果を特定の地域に限定することなく、町全体として各地域のポテンシャルを活かして事業を創出していくため、項目を一部修正します。 P82 「(仮称)犬打峠トンネル開通のインパクトを活かし、その効果を町全体に波及していく町づくりを進めます。」
35	Ⅳ	お茶観光を軸とした交流の郷	観光の振興	観光客を受け入れる場所や体制ができていない。施設整備を進めたり、例えば茶そばを食べる場所を整備したりといった取り組みが必要である。	有	P82	Ⅳ	3	2	犬打峠トンネルの開通に伴う観光客の増加も見据え、その効果が町全体に広がるように項目を修正します。 「(仮称)犬打峠トンネル開通のインパクトを活かし、その効果を町全体に波及していく町づくりを進めます。」

No.	部会の章	部会のテーマ	意見カテゴリ	意見内容	計画記載有無	ページ	章	基本施策	施策方針	計画での記載
36	V	快適で美しい環境の郷	道路の整備	山林道整備やハイキングコース等を作ることで、観光の受け皿も生まれる	有	P82	IV	3	2	和束町の観光は、「お茶」という生業に根差した暮らしに触れ、茶源郷和束の魅力を感じてもらえるものであり、緑泉コースを軸とした茶源郷の回遊ルートの整備・充実に推進することとしています。また、湯船の森林公園に整備したマウンテンバイクランドも活かし、新たな観光が生まれるよう取り組んでいきます。
37	IV	お茶観光を軸とした交流の郷	観光の振興	観光と茶業を連動させて展開が必要ではないか。	有	P83	IV	3	4	町全体を「お茶のテーマパーク」として捉え、「茶源郷・オープンエアミュージアム構想」の立案を検討としています。
38	IV	お茶観光を軸とした交流の郷	情報発信	和束の様々な魅力や取組を、外に対して情報発信する必要がある	有	P83	IV	3	3	従来のマスメディアによる情報発信だけではなく、個人への発信や個人からの情報拡散が期待されるSNSの活用、さらに茶源郷・和束PR大使のさらなる活用を推進していくことで、情報発信力の強化に努めていきます。
39	I	子どもから高齢者までの全ての住民が健やかに暮らせる郷	情報発信	横のつながりの連携による情報発信の仕組みづくり（住民の視点による）が必要	有	P83 P98 P101	IV VI VI	3 1 2	3 1 3	多様な広報手段を講じるとともに、会議やイベント等の様々な機会を通じて住民や各種団体、事業者等に対する広報活動の強化に取り組みます。また、まちづくりを担う人材の発掘・育成とその協働により、各地域の住民から情報発信がされるよう、普及啓発を促進します。
40	IV	お茶観光を軸とした交流の郷	新たな産業おこし	新規開業者への支援を強化し、産業の活力や雇用の増大を図るべきである。	有	P85	IV	4	3 4	6次産業化の推進に向けた経営体を取り組みやすい環境の整備やサテライトオフィス、空き家等を利用した新規開業者への支援に取り組みます。
41	V	快適で美しい環境の郷	雇用対策	町営のワーカーズハウスを作ってはどうか	有	P84	IV	4	2	季節労働者や一時的な雇用者向けの居住スペースとして、和束町体験交流センター2階部分や各農家が確保している空き家を活用します。
42	V	快適で美しい環境の郷	雇用対策	和束版ハローワークを作るなど、雇用促進を図るべき	無	P85	IV	4	3	雇用創出とそれに応じた安定した人材の確保の取組を強化していくため、次のとおり項目を追加します。 「地域での雇用創出拡大に向け、国、府、相楽東部地域と連携し、農家や事業者が安定して人材を確保できるよう取り組みます。」
43	V	快適で美しい環境の郷	空き家活用促進	空き家情報提供者（大家）に謝礼金を出す、または空き家のサブリース制度の導入などを検討してはどうか。	有	P88	V	1	1	新たな空き家バンクへの登録を促進するため、空き家所有者への支援や、空き家バンクへの登録状況によるサブリース制度等の空き家活用の促進に繋がる制度について検討します。
44	V	快適で美しい環境の郷	空き家活用促進	空き家対策プラットフォーム設立して専門人材の紹介の仕組みづくりが必要。	有	P88	V	1	1	京都府宅地建物取引業協会と提携しながら、空き家活用を図るとともに、町内の団体等と空き家の掘り起こしを行いながら、空き家対策プラットフォームについても検討します。

No.	部会の章	部会のテーマ	意見カテゴリ	意見内容	計画記載有無	ページ	章	基本施策	施策方針	計画での記載
45	IV	お茶観光を軸とした交流の郷	空き家対策	空き家はあっても空き家バンクへの登録は少ない。住民に周知し空き家を活用した民間事業者への支援に繋げるべきである。	有	P88	V	1	1 2	空き家バンク制度を有効に活用するためのニーズの把握や情報提供を強化、相談窓口の充実などに取り組みます。
46	V	快適で美しい環境の郷	空き家活用促進	町営住宅を利用したお試し住宅の仕組みを作ってはどうか	有	P88	V	1	2	現在の町営住宅は、低所得者用住宅として建設（補助事業）したものであり、その他の目的で使用することは、目的外使用に当たることからできません。また一方で、利用されていない空き家が多数ある中で、新たに「お試し住宅」を町が建設する事は、民意にも反すると考えるため、計画の中では、空き家の活用をさらに進むよう、制度の充実を図ることとしています。
47	V	快適で美しい環境の郷	道路の整備	府道5号線ロードバイクが多く危険な状況が多々ある	無	P91	V	2	2	ご意見を踏まえて、次のとおり、施策を追加します。 「ロードバイクなどの普及に伴う交通対策として、京都府自転車活用推進協議会、京都府自転車協会などと連携しながら、現在進めている「やましろ茶いぐるライン整備」などを活用し、全ての道路利用者が安全に通行できる環境整備に取り組みます。」
48	V	快適で美しい環境の郷	交通	バスの料金・定期代が高く、交通便が不便であるため、ウーバー・白タク等で、雇用創出を図りつつ、交通便の解消に繋げてはどうか。	有	P92	V	3	2	バスの停留所が近くに無い交通空白地帯において、住民及び観光客を含む来訪者に必要な、持続可能な公共交通を検討していきます。
49	V	快適で美しい環境の郷	公園	運動公園の予約システムと料金見直しを行うべきである	有	P94	V	4	1	住民はもちろん、観光客が求めるニーズの把握に努め、利用しやすい公園づくりに取り組みます。
50	I	子どもから高齢者までの全ての住民が健やかに暮らせる郷	交流	地域住民の交流を促す場の創出が必要	有	P98	VI	1	3	住民同士の交流の場づくりに努め、住民と行政が共に考え取り組める協働体制を構築していきます。
51	IV	お茶観光を軸とした交流の郷	住民参加のまちづくり	関係者の協力体制や、住民の全員参加型のまちづくりを推進すべきである	有	P98	VI	1	-	住民参画の呼びかけや、住民と協働した計画立案や成果に対する評価・検証ができる体制づくりに努めていきます。